

立命館大学環太平洋文明研究センター第 31 回研究会

日時：2020 年 7 月 31 日（金）16:30—18:00

場所：Zoom（参加には事前登録が必要です）

※ 参加をご希望の方は、7 月 30 日（木）までに富田 (tomitaka@fc.ritsumeai.ac.jp) にご連絡下さい

復興の尊厳論、その課題と展望 —東日本大震災発生から 10 年を前に—

内尾 太一

（麗澤大学国際学部准教授：文化人類学）



東日本大震災の発生から 10 年が過ぎようとしている。報告者は、3.11 の津波で被災した宮城県南三陸町をフィールドに、2011 年から 2016 年までの支援と調査の経験に基づくエスノグラフィ、『復興と尊厳：震災後を生きる南三陸町の軌跡』（2018 年、東京大学出版会）を書いた。本報告では、被災地の今日的状況を念頭に置きつつ、復興と尊厳という論点のアップデートを試みる。また、報告者の震災研究は一部、国内に止まらず環太平洋地域も射程に含んでいる。3.11 の海外（チリ）の被災地についても共有をする。

立命館大学環太平洋文明研究センターは「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」ことを目的としてつくられた人類学、環境考古学、地理学、考古学などの研究者からなる研究組織です。定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加下さい。
お問い合わせ先：環太平洋文明研究センター事務局 075-466-3335 HP：<http://www.ritsumeai.ac.jp/research/rcppc/>